

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が最大1細胞/ml、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大2細胞/ml確認されました。また、柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水においても、アレキサンドリウム属が藻津で0.01細胞/ml、栄喜奥で0.03細胞/ml確認されました。当該プランクトンは、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

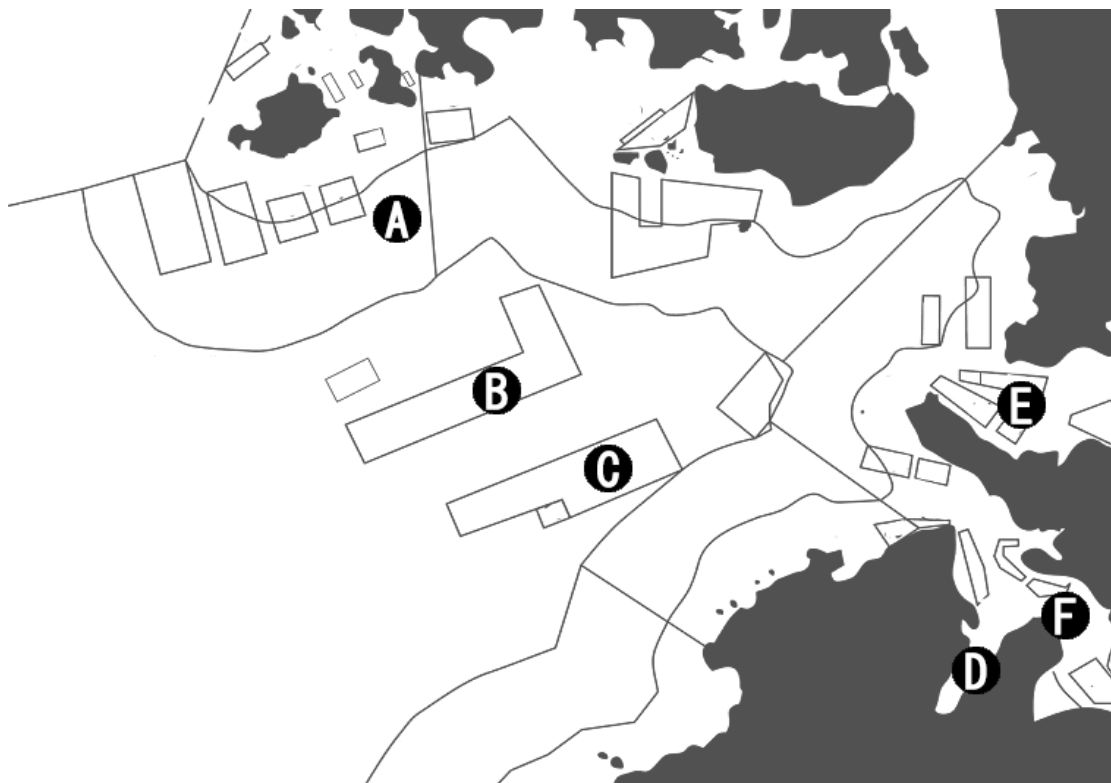
調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	メソディニウム・ ルブラム	アレキサンドリウム 属
A 藻津 (-/36.8m) 【09:14】	0	16.3	34.6	7.3	0	0	0
	5	16.3	34.6	7.3	0	0	0
	7	16.3	34.6	7.3	0	0	0
	★ 10	16.3	34.6	7.3	0	0	0
	15	16.3	34.6	7.3	-	-	-
	20	16.3	34.6	7.2	-	-	-
B 大島中央 (-/32.8m) 【09:25】	0	16.4	34.6	7.2	0	0	0
	5	16.4	34.6	7.2	0	1	0
	10	16.4	34.6	7.2	0	0	0
	★ 12	16.4	34.6	7.2	0	0	0
	15	16.4	34.6	7.2	-	-	-
	20	16.4	34.6	7.2	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.5m) 【09:36】	0	16.4	34.6	7.4	0	0	0
	5	16.4	34.7	7.5	0	0	0
	★ 10	16.4	34.7	7.5	0	0	0
	15	16.4	34.6	7.4	-	-	-
	20	16.4	34.6	7.4	-	-	-
D 栄喜奥 (-/14.6m) 【09:54】	0	15.0	34.1	7.7	0	0	0
	5	15.8	34.5	7.7	0	2	0
	★ 10	15.9	34.6	7.4	0	1	0
	15	15.8	34.5	7.1	-	-	-
E ヒロウラ (-/26.5m) 【10:31】	0	15.4	33.8	7.6	0	0	0
	★ 5	16.3	34.6	7.2	0	0	0
	10	16.3	34.6	7.4	0	0	0
	15	16.3	34.6	7.3	-	-	-
	20	16.3	34.6	7.4	-	-	-
F 青瀬山 (-/16.4m) 【10:03】	0	15.3	34.3	7.9	0	0	0
	★ 5	15.5	34.4	7.9	0	1	1
	10	15.7	34.5	7.5	0	0	0
	12	15.8	34.6	7.4	0	0	0
	15	15.8	34.6	7.4	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津
- B: 大島中央
- C: 小筑紫中央
- D: 栄喜奥
- E: ヒロウラ
- F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。